

## 式辞

吹く風の中にも、少しずつ春のぬくもりを感じることでできる今日の良き日、大阪府立日根野高等学校、第35回卒業証書授与式を挙げていたしまして、ご多用中にも関わりませぬ、多くの保護者の皆様方のご臨席を賜り、本当にありがとうございます。高いところからではございますが、教職員一同を代表して厚く御礼申し上げます。

さて、ただいま卒業証書を授与いたしました232名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。月日の経つのは本当に早いものですね。皆さんに、ここで入学式の式辞を述べさせていただいたことが、つい昨日のこのように思い出されます。

3年前、まだ15歳であった皆さんに、国民的アニメ、ドラえもんに登場する、どこでもドアの話が題材として、高校入学とともに大きく広がる世界で、しっかりと目標をもって学校生活を送りましょうと話させてもらいました。

その際にも言いましたが、人生は常に通過点の連続となります。皆さんがめざして入学をした日根野高校というゴールは、今まさに新しいゴールへと引き継がれ、今日、皆さんは新しい世界へ旅立とうとしています。

そんな新たなスタートを切る皆さんに、私から一つ質問があります。皆さんの今日までの人生に、100点満点で点数をつけるとしたら何点を付けますか。もしよければ、保護者の皆様方も、先生方も今日までの自分自身の人生に点数をつけてみてください。

さて、何点を自分の人生につけましたか。もしかしたら厳しい点数を付けた人もいるのかもしれませんが。でも、今ここにいるすべての皆さんのこれまでの人生は、全員が100点満点です。60点でも39点でも、ましてや0点などでは決してありません。これまで大変なことやしんどいこともいっぱいあった中で、今日、このように笑顔で卒業式を迎えている皆さんは、全員が間違いなく最高です。

私たちは「もっと頑張れ」とか「まだまだできる」などと、厳しい言葉を言いすぎているのかもしれませんが。また、皆さんも自分自身をほかの誰かと比べて、否定的な想いを持つことが多いのかもしれませんが。

しかし、自分の人生を、他の誰かと比べる必要などは全くありません。皆さんの人生はこの世でたった一つの特別なものになります。人は生きて今ここに存在しているというだけで尊いのです。常に残りの人生のスタートの日となる「今日」という一日一日を大切に、自分らしく生きるという人生を歩んでほしいと思います。

今年のお正月には能登半島を大きな地震が襲いました。多くの方が亡くなり、また多くの方がいまだに避難生活を強いられています。皆さんの卒業はこのことと合わせて記憶に残ることになるかと思えます。

この地震で被災された方が、テレビのインタビューに次のように答えていました。「このような大変な状況に見舞われた事はとても不運なことではある。けれども、だからと言って私たちは決して不幸なわけではない」ととてもいい言葉だと思いました。皆さんも長い人生の中で、時には理不尽とも思えるような出来事に見舞われることもあるのかもしれませんが。そのこと自体はとても不運なことではある。けれども、だからと言って人生が不幸せなものになるのではないということ。「人の幸せ、不幸せは自分の心が決める」自分が自分の人生を「幸せ」と決めれば、あなたの人生は幸せなものになるということです。

それでも、これからの人生で、もしかしたら気持ちか落ち込み、心が折れるようなこともあるのかもしれませんが。そんな時のために、今日私からよく効くおまじないの一つさし上げたいと思います。心がしんどい時には、鏡の前に立ち、鏡の中に写る自分自身ににっこりと笑いかけ「大丈夫。あなたは本当によく頑張っているよ。あなたは最高」と話しかけてあげてください。あなたは決して一人ではありません。あなたを陰ながら応援してくれている人はたくさんいます。お父さんやお母さん。友達。私もその応援団の一人として、皆さんの幸せを願っています。

「人は何のために生きるのか」その問いに、あるアニメの勇者が次のように答えていました「自分がここに生きていることを他の人に知ってもらうため。そしてそのことを覚えてもらうため」そして、そのためにはどうすればよいのかとの問いには「ほんの少しでいい、他の誰かの人生を変えてあげること」実は私も皆さんくらいの年のころからずっと同じことを思って生きてきました。皆さんが、これからの人生で、特に困っている人やしんどい思いをしている人の人生を、ほんの少しでいい、変えてあげられる、そんな人になってくれることを心から願っています。

最後になりましたが、今日のこの日を心待ちにし、日々様々なご苦勞を重ねてこられました保護者の皆様方に敬意を表します。また今日までの3年間、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さあ、名残は尽きませんがいよいよお別れです。皆さんの前途に洋々たる未来があらんことを祈念し式辞といたします。

令和6年2月29日、大阪府立日根野高等学校 校長 山本好男